

# 岡田英樹教授 略歴・業績目録

## <略 歴>

- 1944年4月30日 京都府乙訓郡向日町寺戸西垣内9番地に生まれる
- 1963年3月 京都府立桂高等学校卒業
- 1964年4月 京都大学文学部入学
- 1968年3月 京都大学文学部文学科中国語・中国文学専攻卒業
- 1968年4月 京都大学大学院文学研究科中国語・中国文学専攻修士課程入学
- 1970年3月 京都大学大学院文学研究科中国語・中国文学専攻修士課程修了（文学修士）
- 1971年4月 大阪府立三島高等学校教諭（1972年3月まで）
- 1972年4月 大阪外国語大学留学生別科助手（1975年12月まで）
- 1976年1月 大阪外国語大学留学生別科講師（1976年3月まで）
- 1976年4月 立命館大学文学部助教授（1990年3月まで）
- 1990年4月 立命館大学文学部教授
- 2010年3月 立命館大学退職

## <業績目録>

### 著訳書

- 1 『日本語教育のための日本語と主要外国語との音声の対照研究』（共著）大阪外国語大学留学生別科 1976年3月  
（執筆担当）日中語音声の比較
- 2 『一九三〇年代世界の文学』（共著）有斐閣 1982年9月30日  
（執筆担当）「満洲」が生みだした文学
- 3 『魯迅全集』第9巻「集外集・集外集拾遺」（共訳）学習研究社 1985年6月25日  
（翻訳担当）「集外集」の11篇
- 4 『近代日本と植民地』第7巻「文化のなかの植民地」（共著）岩波書店 1993年1月8日  
（執筆担当）「満洲国」の中国人作家——古丁
- 5 『「満洲国」の研究』（共著）京都大学人文科学研究所 1993年3月31日／（再版）緑蔭書房  
1995年4月20日  
（執筆担当）「満洲国」文芸の諸相——大連から新京へ
- 6 『よみがえる台湾文学——日本統治期の作家と作品』（共著）東方書店 1995年10月30日  
（執筆担当）淪陥時期北京文壇の台湾作家三銃士
- 7 『近代日本と「偽満洲国」』（共編著）不二出版 1997年6月30日

- (執筆担当)「満洲国」の創作環境と技巧  
(転載)歪んだ言語風景——「満洲国」における言語の相互浸透
- 8 『文学にみる「満洲国」の位相』(単著) 研文出版 2000年3月31日  
(翻訳)『偽満洲国文学』(靳叢林訳) 吉林大学出版社 2001年2月  
(翻訳)『文学にみる「満洲国」の位相』(崔貞玉訳) 亦楽出版社 2008年10月20日  
→韓国文化体育観光部により2009年度「優秀学術図書」に選定される
- 9 『淪陥下北京1937-45 交争する中国文学と日本文学』(増補版)(共著) 三元社 2002年1月15日  
(執筆担当)北平の山丁  
(転載)第三回大東亜文学者大会の実相
- 10 『満洲国の文化——中国東北一つの時代』(共著) せらび書房 2005年3月25日  
(執筆担当)日本語と中国語が交差するところ——「満洲国」における翻訳の実態
- 11 『〈外地〉日本語文学論』(共著) 世界思想社 2007年3月20日  
(執筆担当)「夜哨」の世界
- 12 『「満洲国」とは何だったのか』(共編著) 小学館 2008年8月4日  
(執筆担当)「満洲国」の中国文学
- 13 『帝国主義と民族主義を超えて』(共著・韓国語) 亦楽出版社 2009年9月20日  
(執筆担当)日本における「満洲国」の文学研究の流れ

#### 論 文 (単著)

- 1 長篇小説「創業史」——躍動する農民群像 『野草』第3号 1971年4月15日  
(翻訳)長篇小説「創業史」——生動的農民形象(孫歌訳) 『柳青紀念論文集』陝西省新華書店 1983年12月
- 2 漢文教育批判(その1) 『野草』第7号 1972年4月20日
- 3 「文芸講話」にみるリアリズム論 『野草』第10号 1973年1月30日
- 4 4・12クデターと作家たち(その1)——葉紹鈞と茅盾の場合 『大阪外大学報』第33号 1975年1月31日
- 5 中国近代文学に描かれた女性像 『大阪外大学報』第36号 1976年3月1日
- 6 胡万春文学の展開——文革後の作品を軸として 『野草』第19号 1977年3月31日
- 7 胡万春「序幕」を読んで——“四人幫”批判の一側面 『立命館大学文学部創設五十周年記念論集』立命館大学人文学会 1977年10月20日
- 8 葉紹鈞童話の世界瞥見——牧戸和宏氏「葉紹鈞の童話集〈稻草人〉」にふれて 『野草』第21号 1978年2月20日
- 9 魯迅・蕭軍の交流に関する覚え書き——『魯迅書信集』を中心として 『外国文学研究』第46号 1979年7月20日
- 10 「文芸講話」が批判した作家たち——王実味、丁玲、蕭軍、羅烽、艾青など 『野草』第27号 1981年4月20日
- 11 雑誌『光明』の教えるもの——“国防文学”と“東北作家” 『白川静博士古稀記念中国文史論叢』立命館大学人文学会 1981年7月2日

- 12 蕭軍研究ノート——附蕭軍略年譜 『外国文学研究』第55号 1982年7月20日
- 13 孤独の中の奮闘——蕭紅の東京時代 『立命館文学』第451 - 453合併号 1983年3月20日
- 14 「満洲国」における「文化交流」の実態——附「日誌・中国系作家の作品目録（初稿）」 『外国文学研究』第62号 1984年7月31日
- 15 蕭軍『文化報』批判の構図 『咿啞彙報』9、10合併号 1985年7月20日
- 16 『報告』・蕭軍・東北文学 『外国文学研究』第67号 1985年8月31日  
（翻訳）『報告』・蕭軍・東北文学（陳宏訳） 『東北文学研究史料』第6輯 1987年12月
- 17 「大東亜文学」の光と影——第二回大東亜文学者大会二題 『咿啞』第21、22合併号 1985年12月25日
- 18 芸文志派の文学軌跡——満洲における中国人作家（上・下） 『野草』第38号、39号 1986年9月10日、1987年2月15日  
（転載）「満洲国」における中国文学の実態 『昭和61年度科学研究費補助金研究成果報告書』1987年3月
- 19 「満洲」の抵抗文学——王秋螢の作品から 『立命館文学創刊五百号記念論集』立命館大学人文学会 1987年3月20日  
（翻訳）東北淪陥時期的抗日文学——簡評王秋螢の文学作品（莫伽訳） 『方志天地』第24期 1987年12月  
（翻訳）従王秋螢の作品看東北淪陥期抗日文学（莫伽訳） 『東北文学研究史料』第6輯 1987年12月  
（転載）『抗戦文芸研究』1988年第3期 1988年10月
- 20 東北淪陥期的“日中文化交流”（中国語） 『外国文学研究』第78号 1987年11月20日  
（再訳）東北淪陥時期的日中文化交流（陳宏訳） 『中国現代文学研究叢刊』1990年2期 1990年5月
- 21 黒い挽歌を歌いつぐ人——「満洲文学」の一側面 『野草』第42号 1988年8月1日
- 22 「満洲」の郷土文芸——山丁「緑色の谷」を軸として 『野草』第44号 1989年8月1日
- 23 東北現代文学研究概況（上・下） 『立命館文学』第513、514号 1989年10月20日、12月20日  
（転載）『十五年戦争と文学——日中近代文学の比較研究』東方書店 1991年2月25日  
（翻訳）東北現代文学研究概況——以淪陥時期为中心（劉錦明、呂戴、劉咏華訳） 『中日戦争与文学——中日現代文学的比較研究』東北師範大学出版社 1992年8月
- 24 「満洲国」からの二人の留学生 『季刊中国』第20号 1990年3月1日
- 25 文学評価の基準とその適用——『東北現代文学史』の検討をとおして 『野草』第47号 1991年2月1日
- 26 東北淪陥区文学をめぐる論争——文学法廷から文学研究へ 『立命館言語文化研究』3巻5期 1992年3月20日
- 27 偽満洲国文芸政策的展開——従“文話会”到“芸文聯盟”（中国語） 『東北淪陥時期文学国際学術研討会論文集』沈陽出版社 1992年6月
- 28 旧「満洲国」の朝鮮人作家について 『昭和文学研究』第25集 1992年9月1日
- 29 翻訳者大内隆雄のジレンマ 『朱夏』第6号 1993年12月30日

- (翻訳) 通過翻訳家大内隆雄看民族協和的真相 (趙忠俠訳) 『偽皇宮陳列館年鑑 1998-1999』
- 30 「満洲国」首都警察の文芸界偵諜活動報告 『立命館言語文化研究』6巻2号 1994年9月20日
- 31 「大東亜」の虚と実——第三回大東亜文学者大会の分析から 『季刊中国』43号 1995年12月1日
- 32 歪んだ言語風景——「満洲国」における言語の相互浸透 『第5回日中シンポジウム《近代日本と「満洲」》記録文集』日本社会文学会地球交流局 1996年12月28日
- (翻訳) 被扭曲了的語言風景——偽満洲国時期漢語和日語的相互浸透 (劉建華訳) 『偽皇宮陳列館年鑑 1998-1999』
- 33 The Realities of Racial Harmony : The Case of The Translator Ouchi Takao “ACTA ASIATICA” No72 TOHO GAKKAI 1997年3月
- 34 「蕭軍文化報事件」と東北の作家たち 『寛・松本教授退職記念中国文学論集』立命館大学人文学会 2000年2月20日
- 35 「満洲国」の言語環境と作家たち 『植民地下、占領下における日本文学についての総合的研究』2000年3月
- 36 満洲国首都警察の検閲工作 『佐々木康之教授退職記念論集』立命館大学人文学会 2001年2月15日
- 37 研究は端緒についたばかり——「満洲国」の文学研究一〇年 『朱夏』第16号 2001年12月15日
- 38 竹内正一論 『神保菘教授退職記念論集』立命館大学人文学会 2002年2月20日
- 39 消し去られた文字——「満洲国」における検閲の実相 『立命館平和研究』第3号 2002年3月25日
- 40 日本占領下の文学状況——「満洲国」の文学研究 『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』世界思想社 2003年6月20日 06年11月
- 41 「満洲国」における特務工作の実態——極秘資料「首警特秘発三六五〇号」が語るもの 『植民地文化研究』第7号 2008年7月15日
- 42 中国語による大東亜文化共栄圏——雑誌『華文大阪毎日』・『文友』の世界 『中国東北文化研究の広場』第2号 2009年3月20日

## 研究ノート

- 1 文化大革命以降の中国文学 『民主文学』1973年11月号
- 2 中国近代文学に描かれた女性像 『中国文芸研究会会報』5号 1976年1月20日
- 3 『書帳』覚え書き 『中国文芸研究会会報』13、14合併号 1978年5月23日
- 4 蕭軍に関する消息——『動向』第6期を読む 『中国文芸研究会会報』19号 1979年5月22日
- 5 落ちた魯迅の髭——『魯迅書信集』をみる 『野草』第24号 1979年10月1日
- 6 復活遂げた蕭軍 『中国文芸研究会会報』22号 1980年2月4日
- 7 修訂された劉・松の文学史 『中国文芸研究会会報』27号 1981年4月1日
- 8 蕭軍・蕭紅出会いについての疑問 『野草』第27号 1981年4月20日

- 9 東北作家李輝英の登場 『中国文芸研究会会報』 29号 1981年7月15日
- 10 中山大学鐘樓文学社刊『紅豆』紹介 『野草』 第28号 1981年9月20日
- 11 三郎と大郎——蕭軍・蕭紅の「文学的」出会い 『中国文芸研究会会報』 33号 1982年4月1日
- 12 「八月の郷村」盗用説の真相 『中国文芸研究会会報』 38号 1983年1月15日
- 13 発掘される東北作家群——『東北現代文学史料』について 『中国文芸研究会会報』 40号 1983年5月15日
- 14 「抗日」から「投降」へ——改竄された小説 『中国文芸研究会会報』 44号 1984年1月20日
- 15 「満洲文芸家協会」会員名簿から 『野草』 第33号 1984年2月10日
- 16 盗作された「這是常有的事」 『中国文芸研究会会報』 45号 1984年3月15日
- 17 蕭軍の短刀 『野草』 第34号 1984年9月10日
- 18 40数年前の古帳簿——吉川幸次郎氏の現代文学観 『中国文芸研究会会報』 52号 1985年5月15日
- 19 裏通りで見つけた掘り出しもの——作家バイコフ日記本 『中国文芸研究会会報』 53号 1985年6月30日
- 20 帰順した紅衣の女匪賊 『中国文芸研究会会報』 56号 1985年11月30日
- 21 蕭軍氏からの回答二題 『中国文芸研究会会報』 57号 1986年1月30日
- 22 「満洲国」における中国知識人の苦悩 『京大非核の会通信』 第52号 1986年6月28日
- 23 「満洲」における中国文学——「芸文志派」の行動 『Foreign Studies Forum』 第3号 1986年7月20日
- 24 穴場を脅かすもの——李克異「貝殻」再版をよろこぶ 『中国文芸研究会会報』 61号 1986年9月30日
- 25 古丁論補遺 『中国文芸研究会会報』 63号 1987年1月31日  
(翻訳) 論古丁・補遺之一(于雷訳) 『古丁作品選』 春風文芸出版社 1995年6月
- 26 作家古丁の経歴紹介 『中国文芸研究会会報』 64号 1987年2月28日
- 27 爵青研究のしんどさ 『中国文芸研究会会報』 65号 1987年4月30日
- 28 古丁論補遺(その2) 『中国文芸研究会会報』 66号 1987年5月31日  
(翻訳) 論古丁・補遺之二(于雷訳) 『古丁作品選』 春風文芸出版社 1995年6月
- 29 会幾句外国話 『中国文芸研究会会報』 67号 1987年6月30日
- 30 古丁転向問題始末——古丁論補遺(その3) 『中国文芸研究会会報』 68号 1987年7月30日
- 31 関沫南氏からの手紙 『中国文芸研究会会報』 76号 1988年3月31日
- 32 資料再版に関する三つのお願い 『中国文芸研究会会報』 77号 1988年4月30日  
(翻訳) 関于再版資料的三点希望 『東北文学研究史料』 第6輯 1987年12月
- 33 暗い谷間の花一輪——三輪武氏の回想から 『中国文芸研究会会報』 78号 1988年5月31日
- 34 「満系作家」の運命 『彷徨月刊』 6巻2号 1990年1月25日  
(翻訳) 満系作家的命運(姜興美訳) 『文学信息』 56期 1990年11月22日
- 35 東北現代文学研究概況(補)——王秋蚩先生手稿より 『中国文芸研究会会報』 100号 1990年3月31日

- 36 「米英撃滅詩」のうらおもて 『中国文芸研究会会報』105号 1990年7月31日
- 37 日本人は「郷土文学論争」にかかわったか? 『中国文芸研究会会報』111号 1991年1月30日  
 (翻訳) 東北日本文人是否参与過“郷土文学”争論? 『東北淪陥時期文学国際学術研討会論文集』沈陽出版社 1992年6月
- 38 「満洲」における研究文献——飯田氏「目録」の補遺(1, 2, 3) 『中国文芸研究会会報』116、117、118号 1991年6月30日、7月30日、8月30日
- 39 古丁と「八紘一字」 『中国文芸研究会会報』122号 1991年12月30日  
 (翻訳) 古丁与“八紘一字”(木風訳) 『文学信息』74期 1992年1月15日
- 40 田琳さんの死を悼む 『中国文芸研究会会報』126号 1992年4月30日  
 (翻訳) 悼念田琳女士(姜興美訳) 『文学信息』88、89期 1992年8月8日、8月31日
- 41 清末小説の価値はどこにあるのでしょうか 『中国文芸研究会会報』126号 1992年4月30日
- 42 再録された東北淪陥時期文学作品(1, 2) 『中国文芸研究会会報』127、128号 1992年5月30日、6月30日
- 43 周金波の講演によせて——大東亜文学者大会 『野草』第54号 1994年8月1日  
 (翻訳) 周金波演講補遺——大東亜文学者大会 『文学台湾』23期 1997年7月5日
- 44 東北作家への質問状(その一) 『地球の一点から』70号 1994年9月28日
- 45 東北作家への質問状(その二) 『第3回日中シンポジウム《近代日本と「満洲」》記録文集』日本社会文学会地球交流局 1994年11月15日
- 46 ある中国文学研究者の「十二月八日」——竹内好の佚文から 『文学・社会へ 地球へ』三一書房 1996年9月15日
- 47 屈折した東北人のこころ 『第5回日中シンポジウム《近代日本と「満洲」》記録文集』日本社会文学会地球交流局 1996年12月28日
- 48 中国図書館事情——東北彷彿旅行 『地球の一点から』101号 1997年10月27日
- 49 「八不主義」の恐怖 『中国文芸研究会会報』213号 1999年7月31日
- 50 三度目の正直——東北彷彿旅行での望外の収穫 『ホロンバイル踏査紀行』日本社会文学会地球交流局 1999年12月28日
- 51 中国東北図書館調査旅行の私的総括 『地球の一点から』105号 2000年6月10日
- 52 一二・三〇事件と建国大学生 『彷彿月刊』16巻8号 2000年7月25日
- 53 「満洲国」における翻訳詩 『中国図書』14巻3号 2002年3月1日
- 54 日本人作家が描いた「満洲」民衆像——青木實「満人もの」を軸として 『NEWS LETTER』5号 2003年10月6日
- 55 韓国の「植民主義と文学」研究 『植民地文化研究』第6号 2007年7月10日

#### 座談会記録

- 1 雑誌『満洲浪漫』をどう評価するか 『植民地文化研究』創刊号 2002年6月15日
- 2 雑誌『満洲芸文通信』の位置づけ 『植民地文化研究』第2号 2003年7月1日
- 3 二つの『芸文』 『植民地文化研究』第3号 2004年7月15日
- 4 「満洲文学」での雑誌『作文』の比重 『植民地文化研究』第4号 2005年7月1日

- 5 『北窓』と哈爾濱文壇 『植民地文化研究』第6号 2007年7月10日
- 6 詩誌『亜』から『戎克』、『燕人街』へ 『植民地文化研究』第7号 2008年7月15日

#### 翻 訳 (単訳)

- 1 五四文学の覚醒とその後の選択 (銭理群) 『野草』第47号 1991年2月1日
- 2 旧事瑣憶——『文選』と『作文』 (黄玄) 『作文』151集 1992年5月1日
- 3 多元的な文化要素が交流・融合するなかで作られた東北地方文化 (逢増玉) 『第5回日中シンポジウム《近代日本と「満洲」》記録文集』日本社会文学会地球交流局 1996年12月28日 (転載) 『近代日本と「偽満洲国」』不二出版 1997年6月30日
- 4 中国東北における抗日戦争とその歴史的 position (王承礼) 『近代日本と「偽満洲国」』不二出版 1997年6月30日
- 5 血の償い (王秋蚩) 『植民地文化研究』創刊号 2002年6月15日
- 6 台湾人の「満洲」体験 (許雪姬) 『植民地文化研究』創刊号 2002年6月15日
- 7 30年代の上海都市文学 (彭小妍) 『植民地文化研究』第2号 2003年7月1日
- 8 山丁花 (疑遲) 『植民地文化研究』第3号 2004年7月15日
- 9 平和博物館が国際平和交流促進のなかで占める位置とその影響について——中日両国青年の南京大虐殺事件に対する歴史認識から (朱成山) 『立命館平和研究』第6号 2005年3月25日
- 10 山海外経 (古丁) 『植民地文化研究』第4号 2005年7月1日
- 11 満洲文話会の歴史と現在 (今村栄治) 『植民地文化研究』第4号 2005年7月1日
- 12 臭い排気ガスのなかで (梁山丁) 『植民地文化研究』第5号 2006年7月10日
- 13 柴を刈る女、忽瑪河の夜 (但娣) 『植民地文化研究』第6号 2007年7月20日
- 14 本のはなし (舒柯) 『植民地文化研究』第7号 2008年7月15日
- 15 放牧地にて (磊磊生) 『植民地文化研究』第8号 2009年7月15日

#### 書 評

- 1 『野草』第4号合評会報告 『野草』第5号 1971年10月20日
- 2 『野草』第13号を読んで 『野草』第14、15合併号 1974年4月20日
- 3 『野草』第18号雑感 『野草』第19号 1977年3月31日
- 4 「放談」から「芳談」へ——『野草』第28号合評報告 『野草』第31号 1983年6月10日
- 5 尾坂徳司『蕭紅伝』を評す 『野草』第33号 1984年2月10日
- 6 佐野君の蕭軍論に異議あり 『野草』第34号 1984年9月10日
- 7 蕭鳳『蕭紅伝』 『中国文学報』第36冊 1985年10月
- 8 30年ぶりの信頼すべき事典——『中国現代文学事典』 『日中友好新聞』1986年2月5日
- 9 『中国現代文学事典』の疵 『中国文芸研究会会報』59号 1986年5月31日
- 10 “作品論”よ静まれ！——『野草』第40号特集にふれて 『中国文芸研究会会報』72号 1987年11月30日
- 11 福田範正「周揚と日本プロレタリア文学運動」 『野草』第41号 1988年2月29日
- 12 オクレテル研究者の繰り言 『中国文芸研究会会報』77号 1988年4月30日

- 13 資料—パトス—作品のはざま 『野草』 第45号 1990年2月1日
- 14 合評会報告・黄英哲「張深切における政治と文学」 『野草』 第47号 1991年2月1日
- 15 合評会報告・実態をふまえた論証を！——銭理群の論文から 『野草』 第48号 1991年8月1日
- 16 蔵書の背後に〈日本〉を読む 『東方』 169号 1995年4月5日
- 17 台湾問題シンポジウム——台湾植民地統治百年にあたって（コメント） 『立命館言語文化研究』 7巻3号 1996年1月20日
- 18 『野草』 第56号「小特集」を読んで 『野草』 第57号 1996年2月1日
- 19 『野草』 64号論評 『野草』 第65号 2000年2月1日
- 20 植民地文学研究の横へのつながりを期待する（星名論文コメント） 『立命館言語文化研究』 13巻3号 2001年12月25日
- 21 作品のヨミをめぐって——星名論文「〈共感〉の『限界点』」の検討 『野草』 第74号 2004年8月1日

#### 資料編纂

- 1 『人民文学総目録・著訳者名索引』（共編著） 中国文芸研究会編 采華書林 1980年5月1日
- 2 香港『大公報』副刊『文芸』総目録（単著） 『外国文学研究』 第50号 1981年2月10日
- 3 『中国近現代文学研究ガイド』（共編著） 中国文芸研究会・啞啞之会編 1985年12月1日
- 4 復刊『文化報』総目次（単著） 『左連研究』 第5輯 1999年10月1日
- 5 『東北淪陥期文化の基礎的研究』（共編著） 西田勝平和研究室 2001年6月
- 6 『《満洲国》文化細目』（共編著） 植民地文化研究会編 不二出版 2005年6月20日

#### 辞典・事典分担執筆

- 1 『日本語教育事典』日本語教育学会編 大修館書店 1982年5月10日  
（執筆担当）漢字に関する8項目
- 2 『新潮世界文学辞典』（改訂版）新潮社 1990年4月20日  
（執筆担当）「満洲国」の中国人作家に関する7項目
- 3 『世界民族問題事典』平凡社 1995年9月20日  
（執筆担当）満洲文学
- 4 『集英社 世界文学大事典』全6巻 集英社 1996年10月25日～1998年1月30日  
（執筆担当）「満洲国」の中国人作家に関する5項目

#### 学術発表

- 1 偽満洲国文芸政策的展開——從“文話会”到“芸文聯盟”（中国語）「東北淪陥時期文学国際学術研討会」（長春市）東北淪陥時期文学研討籌備委員会 1991年9月
- 2 《満洲国》の創作環境と技巧「第2回日中シンポジウム 近代日本と《満洲》」（川崎市）日本社会文学会・東北淪陥十四年史編纂委員会 1993年7月
- 3 在淪陥時期北京文壇の概況——關於台湾作家三劍客（中国語）「頼和及其同時代の作家——日据時期台湾国際学術会議」（新竹市）行政院文化建設委員会・清華大学中国語文系文学

- 研究所・清華大学台湾研究室 1994年11月
- 4 中国人作家が描いた「満洲国」 「第3回シンポジウム 戦後50年、いま『満蒙開拓団』を問う」(飯田市)「満蒙開拓団」研究会 1995年8月
  - 5 歪んだ言語風景——「満洲国」における言語の相互浸透 「第5回日中シンポジウム 近代日本と《満洲》」(長春市)日本社会文学会・東北淪陥十四年史編纂委員会 1996年8月
  - 6 「満洲」における中国人作家：長篇小説「緑色の谷」——創作者の立場と翻訳者の立場 「第5回シンポジウム 1997、いま「満蒙開拓団」を問う」(飯田市)「満蒙開拓団」研究会 1997年8月
  - 7 日本人作家が描いた「満洲」民衆像 「近現代東北アジア地域史研究大会」(吹田市)近現代東北アジア地域史研究会 2002年12月
  - 8 中国語による大東亜文化共栄圏——雑誌『華文大阪毎日』・『文友』の世界 「第5回日台シンポジウム 植民主義と現代性的再検討」(台北市)日本社会文学会・中央研究院台湾史研究所籌備所・行政院文化建設委員会 2002年12月
  - 9 偽満洲国文学と関内文学的溝通(中国語) 「第1回国際フォーラム 植民主義と文学」(ソウル市)韓国民族文学研究所 2005年10月
  - 10 後期『芸文志』——偽満洲国末期的中国文学(中国語) 「第2回国際フォーラム 植民主義と文学」(ソウル市)韓国民族文学研究所 2006年11月
  - 11 日本における「満洲国」の文学研究の流れ 「第4回国際フォーラム 植民主義と文学」(ソウル市)韓国民族文学研究所 2008年10月
  - 12 李輝英の「万宝山」 「第5回国際フォーラム 植民主義と文学——「満洲国」と東アジアの文学」(デジョン市)韓国民族文学研究所 2009年9月
  - 13 一九四〇年代の古丁について 「国際シンポジウム 帝国の追憶、植民の記憶——植民地時代東アジアの言語・文学・宗教」(インチョン市)日本植民地文化学会・韓国仁荷大学BK事業団・仁荷HK韓国学研究所 2009年12月

#### 教科書編纂

- 1 『JAPANESE FOR TODAY——あたらしい日本語』(共編著) 学習研究社 1973年10月  
(執筆担当) 会話部門
- 2 『漢字の練習』(単著) 大阪外大留学生別科 1974年9月
- 3 『AN INTRODUCTION TO KANJI——漢字概論』(単著) 大阪外大留学生別科 1975年11月25日
- 4 『パノラマ中国語——中国語中級テキスト』(共編著) 朋友書店 1993年12月15日
- 5 『コミュニカティブ中国語』 Level1 (共編著) 郁文堂 2007年11月1日
- 6 『コミュニカティブ中国語』 Level2 (監修) 郁文堂 2008年2月1日

#### その他

- 1 野草漫語 『野草』第17号 1975年6月1日
- 2 魯迅について 『土曜講座だより』第2号 1976年10月30日
- 3 野草漫語 『野草』第20号 1977年8月1日

- 4 野草漫語 『野草』第23号 1979年9月20日
- 5 中国文芸研究会と『野草』十年の足跡 『日中友好新聞』1979年10月1日
- 6 やっぱり魯迅を…… 『蒼穹』第9号 1979年11月20日
- 7 『野草』第28号の編集を終えて 『中国文芸研究会会報』第30号 1981年9月18日
- 8 野草漫語 『野草』第28号 1981年9月20日
- 9 二つのソウゾウ力に支えられた新しい運動よ起これ 『くらしと憲法』1982年1月1日
- 10 戦後平和運動の中から——平和運動のルネッサンスを迎えて 『立命評論』第74号 1982年6月
- 11 野草漫語 『野草』第31号 1983年6月10日
- 12 「青春」に期待する 『学術アラカルト』立命館大学一部学術本部企画委員会 1985年4月13日
- 13 『伊啞』十周年に寄せて 『伊啞彙報』9、10合併号 1985年7月20日
- 14 追想断片——新村さんと『野草』 『野草』第35号 1985年7月30日
- 15 広がる草の根・平和運動（座談会） 『立命館教職員組合新聞』1985年8月6日
- 16 「ヤソウサンカ」苦吟 『中国文芸研究会会報』第58号 1986年3月30日
- 17 留学生の大学入学と今後の展開について（パネル論議） 『第七回 JAFSA 夏期研究集会報告書』1987年12月10日
- 18 ちょっと頼りないですが……企画局長就任の弁 『立命館大学国際平和ミュージアムだより』9巻1号 2001年8月24日
- 19 世界学生平和フォーラム2002—平和創造へ青年の課題を共有 『立命館学園広報』350号 2002年11月25日
- 20 刊行にあたって 『立命館平和研究』第4号 2003年3月25日
- 21 広く社会に開放された平和教育施設「平和ミュージアム」へ 『ねっとわーく京都』172号 2003年5月1日
- 22 地階展示室——直接的暴力を描く 『立命館大学国際平和ミュージアムだより』12巻1号 2004年8月6日
- 23 国際シンポジウム「アジアにおける平和博物館の交流と協力」成功裏に閉幕 『立命館大学国際平和ミュージアムだより』12巻2号 2004年10月1日
- 24 嗚呼哀哉！阪口直樹君 『野草』第75号 2005年2月1日
- 25 一階の新展開 『立命館大学国際平和ミュージアムだより』12巻3号 2005年3月10日
- 26 刊行にあたって 『立命館平和研究』第6号 2005年3月25日
- 27 リニューアル課題を通して平和博物館のあり方を考える 『立命館平和研究』第6号 2005年3月25日
- 28 ミュージアムこれまでのあゆみ——新たな高度化へ向けて 『立命館学園広報』376号 2005年6月5日
- 29 装いを新たにした国際平和ミュージアム 『立命館大学国際平和ミュージアムだより』13巻1号 2005年8月6日
- 30 現場の生き証人・鹿地亘資料 『立命館大学国際平和ミュージアムだより』13巻2号 2005年11月10日

- 31 『立命館大学国際平和ミュージアム 常設展図録』（監修・執筆）岩波書店 2005年12月8日
- 32 改装した立命館国際平和ミュージアムのめざすもの 『西日本部会会報』19号 全国大学史料協議会 2005年12月20日
- 33 『立命館大学国際平和ミュージアム 常設展図録』・『岩波DVDブック Peace Archives 平和ミュージアム』刊行——平和・人権教育の教材として 『立命館大学国際平和ミュージアムだより』13巻3号 2006年3月10日
- 34 モノをして語らしめよ——「民家からの証言」 『立命館大学国際平和ミュージアムだより』13巻3号 2006年3月10日
- 35 舞鶴引揚記念館の今後のあり方と活用方策について（共著・研究代表） 立命館大学衣笠総合研究機構地域情報研究センター 2006年3月